



## 1 会長あいさつ

- ・ 前回は、中期基本計画の冊子構成や、計画内容を記載するフォーマットの形、中期基本計画の施策構成（案）についてご協議いただいた。
- ・ 前期では、「大家族たかはま」の実現に向け、4つの基本目標のもとに、14の分野ごとの目標を掲げて取り組みを進めてきたわけだが、前期の取り組みから見えてきた課題や新たな課題、また、今後、力を入れて取り組んでいく必要がある事柄などを踏まえ、目標の統廃合を行い、中期では、分野ごとの目標を全部で11にすることで決定した。
- ・ 本日は、いよいよ計画内容の具体的な検討に入るということで、職員が作成した基本計画の素案を発表していただき、意見交換を行う。
- ・ 職員に、今後、よりよい素案を練り上げていただけるよう、「市民のみなさんから見てわかりやすい内容になっているか」など、市民目線で、大局的な観点からご発言をお願いしたい。
- ・ 職員プロジェクトチームは、次回の審議会までに、委員からの意見をどのように受け止めたのか、反映されたかを、審議会へ返していただきたい。

## 2 議題

### 1) 中期基本計画（素案）について

事務局より資料2の目次と基本計画の見方、資料3の概要を説明

行政： ・「目標（1）まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます」について説明

委員： ・「目標達成に向けての考え方」の2行目に、「市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで力を持ち寄り」とあるが、言葉が弱いのではないか。「連携・協力し、未来を切り開いていく」など、もう少し力強い表現にしてはどうか。  
・「こんなことに取り組みます」に「コミュニケーションを活発にします」とあるが、前期も取り組んできたにもかかわらず、中期で「活発にします」という言葉は弱いのではないか。

・「こんなことに取り組みます」の「職員力を高めます」の部分で、「できるよう」というのは非常に弱いので、「取り組むために職員力を高めます」という表現にした方がいい。

・全体的に、前向きな力強い表現にした方が、中期の計画としては相応しい。

・「目標達成に向けての考え方」の2行目に「市民・地域・行政」という言葉がある。よく防災で「自助・共助・公助」という言葉もある。「市民・地域・行政」という3つの言葉に、何か新しい意味があるのか、お聞きしたい。

行政： ・「市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで力を持ち寄り、みんなで切り開く」について、「連携・協力」というニュアンスが欲しいとのご意見だが、まず市民・地域・行政の個々が力を高め、その個々が力を持ち寄って、先ほど言われたような連携・協力をして、さらに未来を切り開く力へとつなげていくということである。一度、検討させていただきたい。

・「自助・共助・公助」を「市民・地域・行政」とわかりやすく表現した。

・「こんなことに取り組みます」の1つ目の「コミュニケーションを活発にします」だが、前期を振り返ると、情報の収集・発信が少し弱かったように感じている。

情報の発信については、一緒にまちづくりを行っていくうえで大切であり、前期としての反省を踏まえて、「市民と行政、市民と市民のみなさん同士がコミュニケーションを活発にしていこう」とした。

- ・4つ目の「職員力」のところでは、ご指摘のとおり「取り組むために職員力を高めたい」と言い切ったほうが力強いと思うので、変更させていただく。

行政 : ・「目標（2）将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います」について説明

委員 : ・「みんなで目指すまちづくりの指標」に、「将来的な公共施設のあり方に関心を持っている人の割合」とあるが、前期に比べてとても小さな指標になっている。前期のように、財政状況を全体的に見る指標を設定した方がよいと思う。

行政 : ・確かにご指摘のとおり、財政状況の全体を見るには小さいという感はあるが、公共施設のあり方に関する計画をとりまとめるため、その計画を踏まえながら財政運営をしっかりとやっていきたいという考えから、公共施設に関する指標を設定した。

委員 : ・そうすると、財政状況を全体的に見ることができず、評価ができなくなるような気がする。

行政 : ・もう1つの指標「財政運営に納得している人の割合」で、計画的、効果的な財政運営を進め、納得している市民の方が増えていけば、しっかりとした財政運営ができていることが把握できるのではないかと考えている。全体の状況については、こちらの指標で判断していきたい。

行政 : ・目標（3）「人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます」について説明

委員 : ・最初のところで、「人づくり」から「まちづくり」へと謳っているということは、「人づくり」はもうできた、次は、それを「まちづくり」に活かしていくということだと思うが、「目標達成に向けての考え方」や個々の「こんなことに取り組めます」を見ても、そのことがあまりわからない。

行政 : ・「人づくり」は個人の学びを指しているが、個人の学びに終わりはないし、当然、「まちづくり」にも終わりはない。両方とも終わりが無い目標に向かって、取り組んでいかなければいけない。

- ・生涯学習の一番の根幹は「子どもを根っこに据えて」ということで、地域の大人の方たちが関わることで、根っこを大きな木にしていくという考えを持っている。そうした子どもたちが徐々に成長していく中で、まちづくりの方も活性化していく。

- ・今、まちづくり協議会でも、様々な取り組みを行っていただいております、まちづくりがかなり活発化してきている。地域ごとにそれぞれ進めているまちづくりを、いずれ高浜市全体へ、戦略的なまちづくりという動きにつないでいければと思っています。

委員 : ・「こんなことに取り組めます」の1番目に、「地域の人たちが地域の人たち（特に子ども）の成長に関わる仕組みを増やします」とあるが、「組織を構築する」というフレーズには理解できるが、「仕組みを増やす」というフレーズが、理解しがたい。

- 行政 : ・「仕組みを増やす」という表現は、機会を増やしていくという意味で表現した。これまでも、そして、これからも、地域の人たちがいろいろと関わりあいながら、お互いに成長を続けるという機会を増やしていきたいと考えている。表現については再考させていただく。
- 委員 : ・私は「まちづくりは人づくり」と捉えているが、中期で「人づくりからまちづくりへ」と考えるというのは、少し早いような感じがする。まだまだ中期で「人づくり」はやるべきと感じている。
- 委員 : ・「人づくり」の部分で、市の職員の方たちが、まち協特派員として活躍されるなど、いろんところでしっかり勉強されて、地域の人たちとともにレベルアップされている。職員育成の指針・考え方などについても「人づくり」のところで想いを載せていただくとよい。
- 行政 : ・中期において「人づくり」から「まちづくり」へシフトするのは、まだ早いのではないかというご指摘だが、「人づくり」も「まちづくり」も終わりはなく、どちらも力を入れていくべきものである。
- 行政 : ・総合計画が前期・中期・後期とある中で、中期については「人づくり」の部分から、少しずつ「まちづくり」へシフトしていくという過渡期であるとイメージしている。少しずつ「まちづくり」を念頭におきながら、生涯学習を進めていきたいと考えている。
- 行政 : ・目標（４）「学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます」について説明
- 委員 : ・11ページで「目標が達成された姿」というのは、前期と比較すると、かなり後退しているように感じる。
- 行政 : ・幼稚園・保育園から中学校という縦のつながり、園や学校・家庭・地域といった横のつながりが密になっていくことで、子どもたちが元気に学校へ行く。これが、一番の基本である。
- 行政 : ・まず、子どもたちが元気に園や学校に通うことが原点にあり、そこから子どもたちが様々なつながりを豊かにしていく中で、発達段階に応じた学習習慣、生活習慣を身につけた子どもたちが増えていくことを目指している。
- 行政 : ・内容としては、ごく当たり前のことではあるが、一番基本のところを一番確実に、行っていきたいということで、このような表現とした。
- 委員 : ・前期の目標が達成された姿では、「子どもが心身ともに健康で、夢や希望を持ち」と謳っている。中期では、それをただ「元気に学校へ行けばいい」ということではいけない。確かに基本中の基本ではあるが、それが本当に目標なのかと思う。もう少し中身を検討していただきたい。
- 委員 : ・「高浜が好きと感じている子どもの割合」は、どのようにして把握されるのか。
- 会長 : ・子どもに対するアンケート調査は11月に行う。
- 委員 : ・この分野だけでなく、全体的に感じるところだが、前期に比べて、こういう形の指標が多くなっていると感じる。
- 委員 : ・「施策を打ったから上がりました」というのであればいいのだが、偶然上がる場合もあるのではないか。こういう施策を打ったから上がったとなって、初めて

成果があったといえる。例えば、映画「タカハマ物語」を上映した前後で「高浜市が好き」と感じている子どもの割合が何%上がっているとか、映画を見た人と見ていない人とで満足度が違うなど、施策や制度を打ったことによって、指標の数値が上がるという形がよいので、ご検討いただきたい。

- 委員 : ・まちづくり指標が、前期では「学校がとても楽しいと感じている子どもの割合」「学習に積極的に取り組む子どもの割合」「ボランティアに参画した子どもの割合」だった。
- ・しかし、今回指標としてあがっている「学校が好きと感じる割合」と「高浜が好きと感じる子どもの割合」というのは、学校教育の分野としては何ら指標にはならないのではないかな。
- ・確かに「ボランティアの参画の割合」はアンケートをとるのが非常に難しいので見直す必要はあるが、前期で打った布石、施策に対して、中期において今後アクションをとっていくことになる。全般的に指標については、再考する必要がある。
- 委員 : ・高浜には高校がある。「12年間の学びと育ちをつなげる」とあるが、高校の3年間は付け加えなくていいものか。
- 行政 : ・高校については、当市の教育委員会の管轄に入っていない。市の管轄である義務教育の中での12年間という捉え方をしている。
- ・「学校が好き」については、いじめ、体罰等々、学校についての捉え方というものも、いろいろと出てきている。そういう中で、授業力も大きい。理解できる授業を行っていかないと、当然、「学校が好き」ということにならないので、込められた深い意味があるをご理解いただきたい。
- 委員 : ・今どきの子どもは、1、2言ってもわからない。1から10までしっかり主旨を伝えないと理解できない。
- ・「ボランティアに参画する子どもの割合」は、前期で市民側が苦勞したものが、やっと効果が表れてきている。指標の設定は再考をお願いしたい。
- 会長 : ・審議会としては、もう一度、持ち帰って再考をお願いしたいというのが大勢である。
- 行政 : ・目標(5)「地域社会全体で子育て・子育ちを支えます」について説明
- 委員 : ・以前に比べて、ニーズという表現が増えている。ニーズ調査はどのような形で、どのような人を対象に行うのか。
- ・単なるニーズ把握というだけでは、市民にわかりにくいので、相談などから挙がってきたものをどうするかも、触れておくとよい。
- 行政 : ・国の法律で、市町村は「子ども子育て支援事業計画」を策定することになっており、その前に、ニーズ調査を行わなければならないと、示されている。
- ・対象としては0～5歳、いわゆる小学校就学前の子どもの保護者向けに、幼稚園・保育園といった教育・保育施設、預かりの関係、延長保育などについてニーズ調査を行い、それをもとに、計画に幼稚園・保育園の定数を盛り込んでいく。
- ・また、これ以外にも、預かり保育、延長も含めた地域ニーズを把握して事業展

開しなさいということが、法律で定められている。ニーズ調査は今年度行い、それに基づいて計画をつくる予定をしている。

- 委員 : ・「子育てと仕事の両立」と書いてあるので、仕事の部分でいくと、0歳から5歳だけではなく、学童とか、放課後居場所の部分も関わってくる。
- 行政 : ・0歳～5歳の子どものも保護者も、将来的には学童や放課後居場所事業の対象となってくる。将来的に保護者の方はこういった事業を求めているかといったことも含めた調査をしていく。
- 行政 : ・目標(6)「産業を活性化して、まちを元気にします」について説明
- 委員 : ・「市内の企業・事業所が元気だと思う人の割合」という指標は、主観が入っており、客観的ではない。企業や行政の努力がわかるような指標にした方がいい。景気などで影響されないものがある。
- 委員 : ・前期の指標はかなり具体的な内容で、また景気が悪ければ下がるという指標ばかりだった。何か具体的なものがあるとありがたい。
- 行政 : ・たとえば、市外からの流入数がこれぐらい増えたかとか、調べられるかわからないが、そういう内容があると高浜が活性化してきたことがわかってよい。
- 行政 : ・ただいまのご指摘については、職員でも、前期の策定段階から重々承知している。わかりやすい指標がいいということで、前期では製造業出荷額、店舗数等、具体的な数値を挙げていたが、実績値が出てくる時期にタイムラグが生じてしまい、逆にわかりづらいのではないかとこの話が職員内部であがった。
- 行政 : ・そこで、高浜市民がまち全体を見て、その産業の活気付きや活性化しているかどうかを、どのようにとらえているかを指標として挙げたらどうかと考え、この指標を挙げた。
- 行政 : ・目標(7)「みんなでまちをきれいにします」について説明  
(意見なし)
- 行政 : ・目標(8)「ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります」について説明
- 委員 : ・「目標が達成された姿」や「こんなことに取り組みます」のところに、移動に関する記述があるので、指標を「暮らしやすい環境」とまとめてしまうのではなく、移動に関する指標があるとよい。その場合、一般の人の感じる割合と、たとえば、移動しにくい子ども、障がい者、高齢者の方と比べてどうか、自動車を持っている人と持っていない人ではどうか、比較がわかるとよい。
- 委員 : ・「暮らしやすい環境」という指標は抽象的なので、もう少し具体的にした方がいい。前期の指標の方がよいのではないかと。
- 行政 : ・一度、検討させていただく。
- 行政 : ・目標(9)「安全・安心が実感できる地域づくりを進めます」について説明
- 委員 : ・「こんなことに取り組みます」の中に、将来を踏まえ、小学生、中学生、高校生を巻き込んだ取り組みを盛り込んでいただくとありがたい。
- 行政 : ・持ち帰って、検討させていただきたい。
- 行政 : ・目標(10)「一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます」について説明
- 委員 : ・資料を送っていただいた日と前後しているのかもしれないが、8月20日(火)

に高浜市の未来を創る市民会議の地域福祉分科会を開催した。その時に話し合われた内容で、変更と追加の項目が、今、説明の中になかったので、確認させていただきたい。

- ・指標については、前期では結果につなげることができなかったので、見直すべきである、目標を達成するべくための内容に変えるべきであるという意見であった。この2点については、もう一度検討していただきたい。
- ・「取り組みます」の内容が、障がい者・要援護者・高齢者に対するものが主になっている。市民会議では当初から「すべての市民の方たちが福祉を身近に感じられなければ、地域を支える担い手が育たないのではないか」という声があった。その辺りが内容の中に見えてこないの、少し残念かなという気がしている。
- ・行政が作成する資料なので、少し難しい文言になってしまうのかもしれないが、市民会議で意見交換された内容が表現として出てくるようにしていただくとよい。

委員：・「みんなで目指すまちづくり指標」の認知症サポーターの人数は、現状値が2,843人、目標値が5,600人となっている。また、17ページの「環境美化推進員の人数」、現状値が2,900人、目標値が3,500人、さらに15ページの「まつり・イベント来場者数」の現状値15万500人、目標値18万600人とあるが、この単位は皆、統一されているのか。

行政：・今、挙げられた指標の数値は、いずれも絶対人数である。  
・市民会議地域福祉分科会よりも審議会資料の提出期限が先だったため、修正が間に合わなかった。いただいたご意見は、反映させていきたい。

委員：・今、結構、問題になっているのが、子どもでもない、障がい者でもない、高齢者でもないという人の困りごと相談が増えている。  
・40歳だが、障がい者手帳は持っていないという方などが該当するが、そういう方も目標に掲げる「一人ひとりを認め合い」の「一人ひとり」に入るのだと思う。そのような方に対して、どのように対応していくのかということも「こんなことに取り組みます」の中に入れていただくとよい。もしかすると、入っている部分もあるのかもしれないが、そんな視点を持っていただきたい。

行政：・「こんなことに取り組みます」の中で、反映できるかどうかを検討したい。

行政：・目標(11)「一人ひとりの元気と健康づくりを応援します」について説明

委員：・「みんなで目指すまちづくり指標」の1)「日常的に運動やスポーツを行っている人の割合」とあるが、これに対する「こんなことに取り組みます」が見当たらない。また、「目標が達成された姿」から見ても、違和感がある。

行政：・「目標達成に向けての考え方」の一番上の◆ダイヤのところ、若い頃から積極的に健康寿命対策に取り組んでいくことが大切であるという基本的な考え方を打ち出している。

- ・健康寿命の延伸対策として、運動やスポーツ、軽運動やウォーキングも含めてであるが、そうした取り組みを伸ばしていくことによって、結果として健康寿命が伸びていくと考えている。

- 委員 : ・運動・スポーツを行わせるためには、何をやるということがはっきりと打ち出されていないような気がする。
- 行政 : ・「こんなことに取り組みます」の3つ目、ライフステージに応じた運動ということで、見ていただきたい。
- 事務局 : ・第4章「計画の進行管理」について説明。

(意見なし)

- 会長 : ・それでは、私の方からも、一言、述べさせていただきます。
- ・まず、いただいたご意見についてだが、行政の側と審議会の側で議論を戦わす場ではない。審議会委員の意見を受け止めていただき、それを次回に反映していただく場である。
- ・市民の声を聴く場として、高浜市の未来を創る市民会議など、いろいろな組織があるが、先ほどのご意見のように、あれだけ議論したことがどうして反映されていないかというのは、そういう意味では正当な意見である。それらを踏まえた上で、本日は総括的に意見交換をしているので、本日の審議会は大変重い意味を持っている。
- ・本日、出た意見の中には、かなり重要なことがある。「みんなで目指すまちづくり指標を根本的に見直してほしい」ということ、これは大部分ではないが、かなり出た。これはお持ち帰りいただいて、再提案してほしい。
- ・それから、指標については、私たちの方も意見を出すにあたって、ある程度、考え方を整理しておいた方がいい。
- ・一つは、その指標が学問的にいうと、プロセス指標なのか、シークエンス、つまり成果指標なのかという疑問はあるのだが、それは専門的な議論なので、省く。
- ・それよりも、自然に業務の中から量的に上がってくる日報・月報・年報、もしくは決算書等から拾えるコストのかからないデータなのか、ということも大事だ。
- ・コストをかけて、改めて市民意識調査をするという場合でも、項目数は50も60も100も聞かない。市民も20も30も答えると大変なため、回収率が落ちる。だから、選択的に絞らざるを得ない。何でもアンケートをやればいいというものではなく、その中で、選択的に非常に取りやすいものを、しかも効き目のあるものを選んでいくということをやらざるを得ないということは、相互とも確認しておきたい。
- ・だからこそ、よりきちんとしたものを選ばざるを得ない、現実的にできる取り組みとして、コストがかからない調査データも活用しようということである。
- ・例えば、成果指標も、実は3種類ある。算数的に言うと、微分的な傾向性を表している指標と、「必ずこれは変わりました」と言える積分的指標とある。もっとやさしくいうと、「意識で見るのか」「行動傾向で見るのか」「結果で見るのか」ということである。
- ・これも、理想をいえば、結果で見たいのだが、そんなに簡単に結果が出ない、中長期的評価が必要なことがある。そういうものは、微分的に意識で見るとい

うより、積分的に行動傾向で見ざるを得ない。こんなような議論の整理をして、また、再提案をしていただきたい。

- ・算数的には「主変数なのか、従変数なのか」という議論があるが、今の整理である程度できるだろう。「意識で見るのか、行動で見るのか、結果で見るのか」ということだ。それから、コストはどうなのか、計測可能なのか。理想論を言っただけ出すことではないので、実務的にも太刀打ちできるというものにしなければいけない。
- ・本日は素案について、初めて説明を聞かれた委員が多いと思う、また、内容は非常に盛りだくさんだ。時間にも限りがあるし、ストレスが溜まったかもしれない。意見を言い尽くせないだろうということで、委員のみなさんに「意見用紙」が配布されている。この「意見用紙」に、本日言い尽くせなかった、追加したいということを書いて欲しい。そのためにも、再度、素案にお目通しいただいて、9月4日（水）までに事務局にご提出いただきたい。多くのご意見をいただいで、よりよい案にしたい。
- ・職員プロジェクトチームは、次回の審議会までに、各委員からどのような意見が出たか、どのように反映したのかということ審議会に返して欲しい。

## 2) 中期基本計画（素案）の公表方法（案）について

事務局より資料4をもとに説明

(質疑なし)

—原案どおり承認—

## 3 その他

事務局 : ・「まちづくりフォーラム」の紹介、「審議会の追加開催」、「議事録（案）の送付」について事務連絡。

第9回審議会：9月24日（火）午後7時～